

# ごあいさつ

このたびは追手門学院大学附属図書館『宮本輝ミュージアム』にご来場いただき、誠にありがとうございます。2011年秋、「三十光年の星たち」をテーマに企画展を開催します。

『三十光年の星たち』(2011年 毎日新聞社刊)は、毎日新聞で2010年1月1日～12月31日まで連載された作品です。無職で借金を抱える一人の青年が、後に人生の師となる老人と出逢い共に旅をし、自分の進むべき道を見つけて歩みはじめます。

この作品は「歳月四部作」\*の第四作目として位置づけられていますが、作中には、植樹や職人の手仕事である陶作、植物染めなど「歳月をかけて熟成し完成するもの」が織り込まれ、物語のベースとして作品を色づけています。

この企画展では、小説の紹介とともに、新聞連載で挿絵を担当された赤井稚佳氏の原画を展示いたします。皆様に「三十光年の星たち」の世界をより深く味わっていただければ幸いです。

今回の企画展に際しまして、多くの方々のご協力をいただきました。関係各位の多大なるご協力に感謝し、この場を借りて深くお礼を申し上げます。

\*「歳月四部作」とは、長い歳月は不幸や災厄を逆の何かに変化させ得るというテーマを扱った下記の四つの宮本作品を指す。  
『にぎやかな天地』(2005年 中央公論新社刊)／『骸骨ビルの庭』(2009年 講談社刊)／『三千枚の金貨』(2010年 光文社刊)／『三十光年の星たち』(2011年 毎日新聞社刊)

宮本輝ミュージアム